

(6) 運転事故の概況

(ア) 民鉄(JRを除く)の運転事故の概要

令和5年度の全国の民鉄(JRを除く)における運転事故総件数は図－1に示すとおり、342件で前年度(297件)より45件増加している。

列車走行100万キロ当たりの事故件数の推移については、図－2に示すとおり、鉄道においては、0.6件と前年度から0.1件の増加であり、軌道においては、1.3件と対前年度0.9件の減少となった。

九州管内における令和5年度の運転事故総件数は図－1に示すとおり、29件で前年度から13件増加となっており、鉄・軌道別に見ると表－1に示すとおり、鉄道は16件で前年度から10件増加し、軌道は13件で前年度から3件増加した。

九州管内の運転事故の種類別は表－1及び図－3に示すとおり、令和5年度で鉄道は踏切障害事故及び人身障害事故であり、軌道においては道路障害事故が最も多く全体の約7割を占めている。

九州管内の運転事故を原因別に見ると、図－5及び図－6、図－7に示すとおり、令和5年度では鉄道は踏切道での直前横断等や線路内立入及び、酔客などによるホーム上での接触等の部外原因となっている。また、軌道においては、自動車や歩行者との直前横断等による部外原因が多くなっているが、令和5年度には乗務員の取扱い誤りによる車両脱線が発生した。

九州管内のインシデントについては、図－18に示すとおり、令和5年度は6件と対前年度1件の増加となった。

これらの事故等を防止するためには、鉄・軌道事業者の安全確保に向けた取り組みはもとより、鉄道利用者、踏切通行者、沿線住民等への注意喚起・啓発活動等を交通安全運動等の機会あるごとに実施するとともに、踏切道については、引き続き踏切道の立体交差化、構造の改良、踏切保安設備の整備、統廃合の促進、その他踏切道における各種対策を積極的に推進していく必要がある。

表－１ 管内運転事故件数及び死傷者数（民鉄）

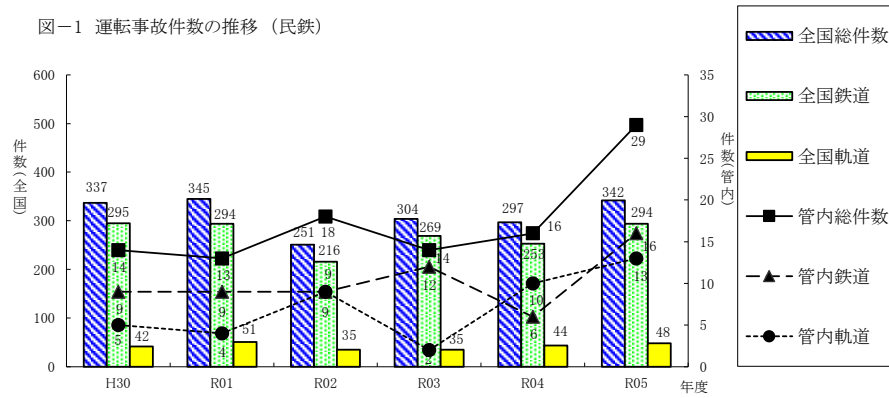
（各年度末現在）

鉄・軌道別 事故種別		鉄 道						軌 道						計					
		H30	R01	R02	R03	R04	R05	H30	R01	R02	R03	R04	R05	H30	R01	R02	R03	R04	R05
列車衝突	件 数							1 (1)		2 (2)		3 (3)	1 (1)	1 (1)		2 (2)		3 (3)	1 (1)
	死 亡																		
	負 傷									4 (4)		7 (7)				4 (4)		7 (7)	
列車脱線	件 数	1 (1)	1							1				1 (1)	1	1			
	死 亡		1												1				
	負 傷		1												1				
列車火災	件 数																		
	死 亡																		
	負 傷																		
踏切障害	件 数	7	7	5	7	2	10	1	2	1		1	2	8	9	6	7	3	12
	死 亡		1	1	2		1								1		2		1
	負 傷	4	1	3	4		2							4	1	3	4		2
道路障害	件 数							3 (2)	1	3	2	6 (1)	9	3 (2)	1	3	2	6 (1)	9
	死 亡												2						2
	負 傷							4 (1)	4	2	1	7 (3)	5	4 (1)	4	2	1	7 (3)	5
人身障害	件 数	1	1	4	5	4	6		1	2 (1)			1	1	2	6 (1)	5	4	7
	死 亡			1	2	3	2									1	2	3	2
	負 傷	1	1	3	3	1	4		1	2 (1)			1	1	2	5 (1)	3	1	5
物損事故	件 数																		
	死 亡																		
	負 傷																		
合 計	件 数	9 (1)	9	9	12	6	16	5 (3)	4	9 (3)	2	10 (4)	13 (1)	14 (4)	13	18 (3)	14	16 (4)	29 (1)
	死 亡		2	2	4	3	3						2		2	2	4	3	5
	負 傷	5	3	6	7	1	6	4 (1)	5	8 (5)	1	14 (10)	6	9 (1)	8	14 (5)	8	15 (10)	12
列車走行キロ(千km)		20,002	20,006	19,180	18,976	19,104	19,340	5,825	5,742	5,348	5,285	5,137	4,971	25,827	25,748	24,528	24,261	24,241	24,311
100万キロ当たりの件数		0.45	0.45	0.47	0.63	0.31	0.83	0.86	0.70	1.68	2.73	1.95	2.62	0.54	0.50	0.73	0.58	0.66	1.19

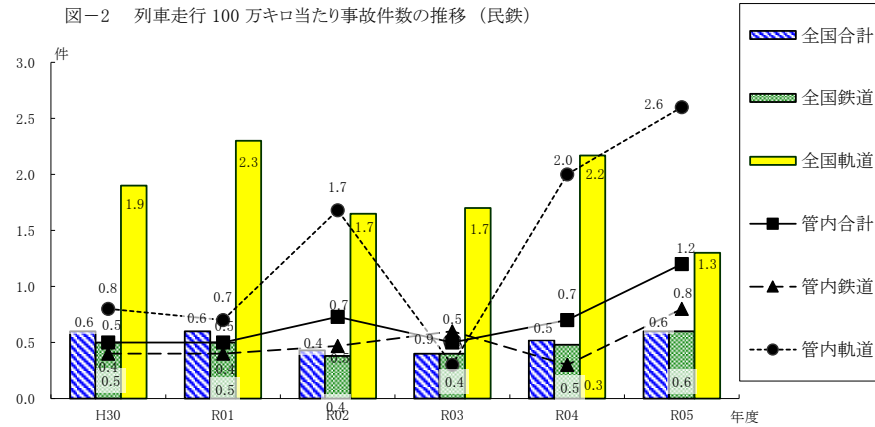
資料：鉄道部安全指導課

(注) ()内は有責事故

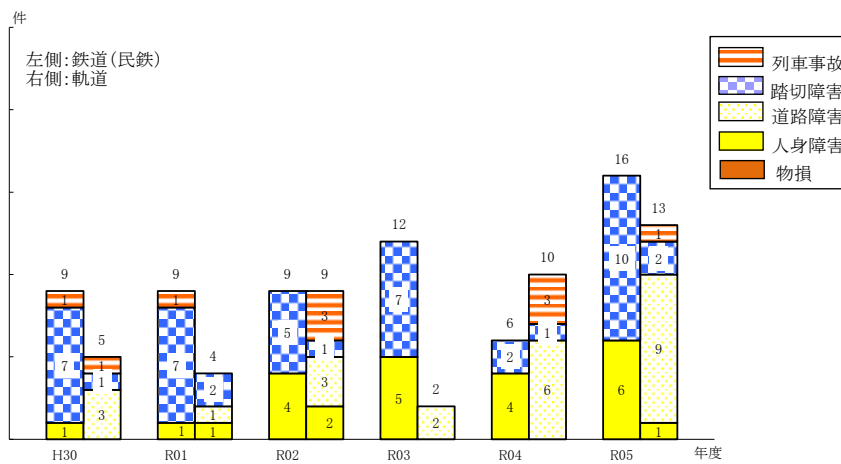
図－1 運転事故件数の推移（民鉄）



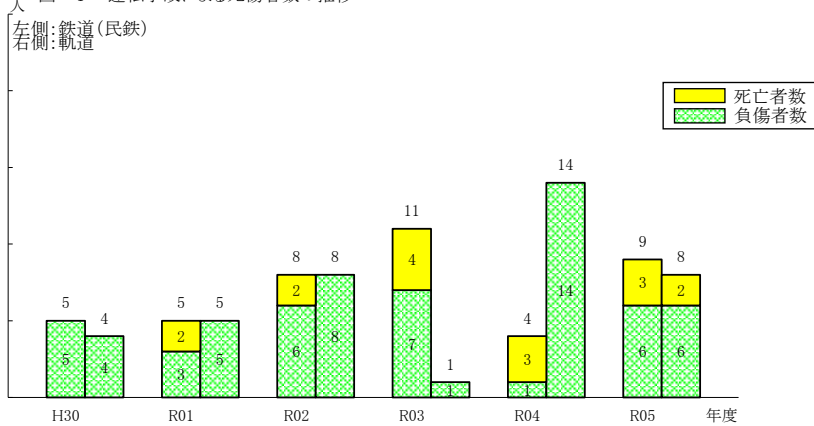
図－2 列車走行 100 万キロ当たり事故件数の推移（民鉄）



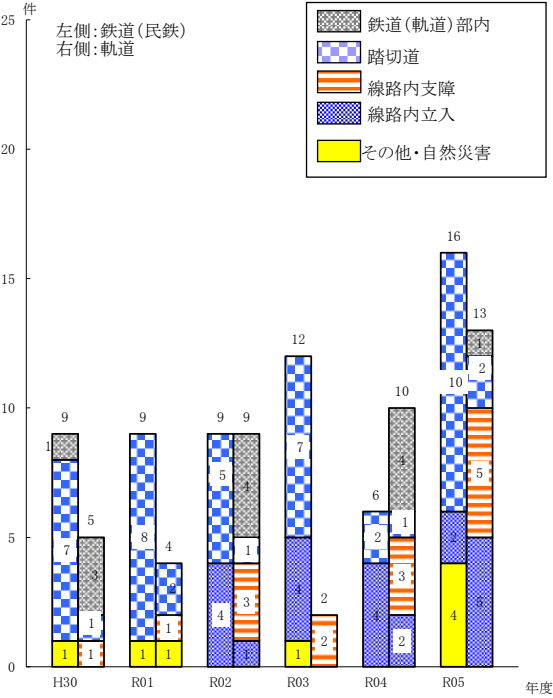
図－3 運転事故の種類別件数の推移



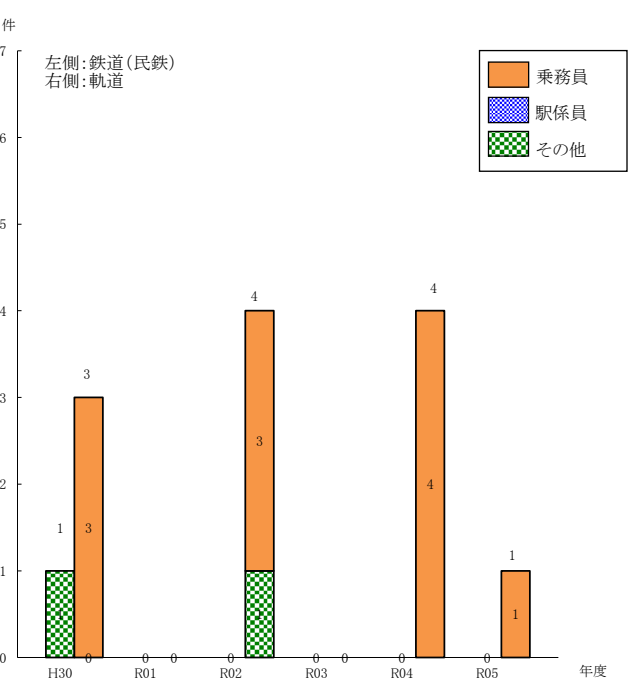
図－4 運転事故による死傷者数の推移



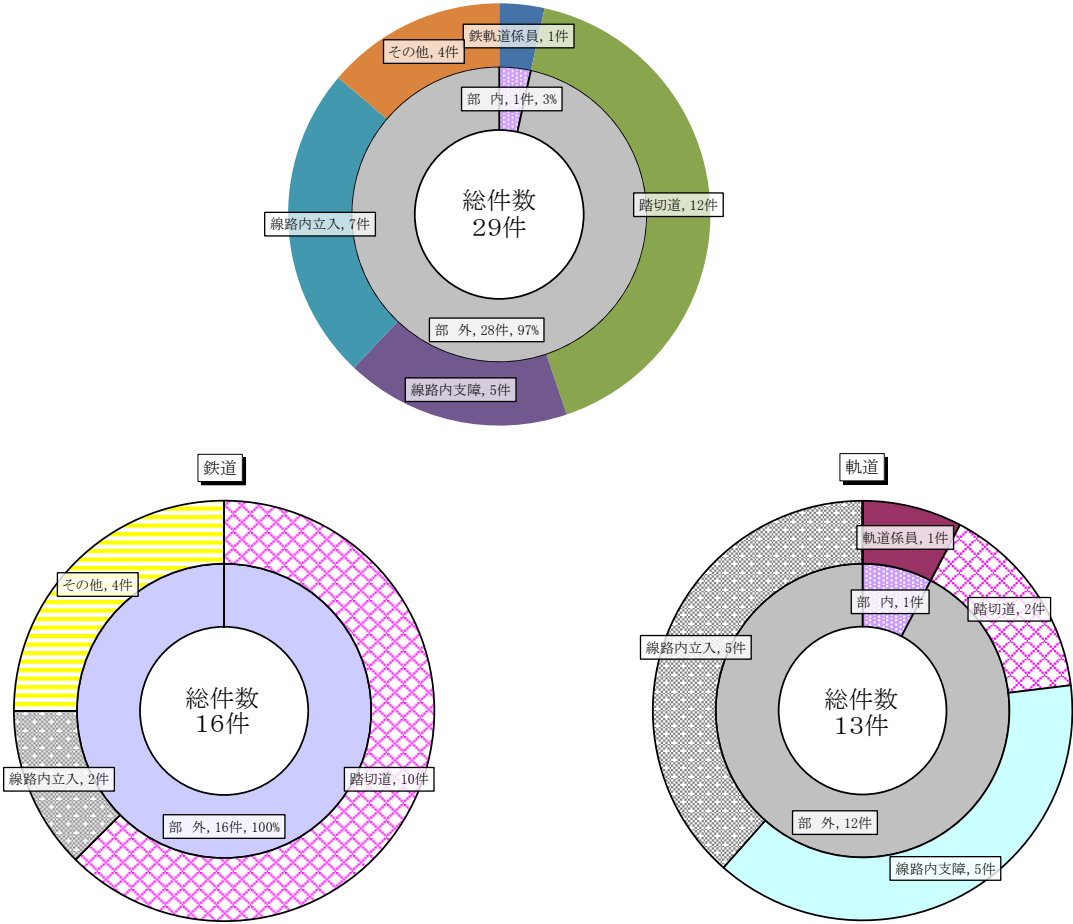
図ー５ 運転事故の原因別件数の推移



図ー７ 責任事故の原因別件数の推移



図ー６ 令和5年度運転事故の原因別件数



ア. 列車事故

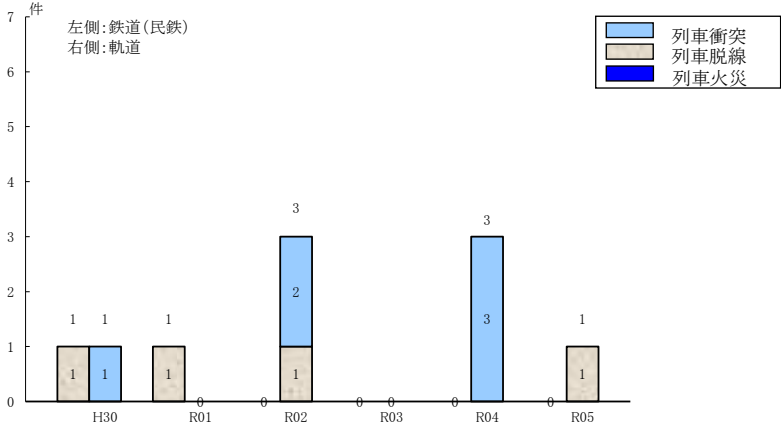
令和5年度の発生件数は、表－2及び図－8のとおり、軌道1件であり前年度より2件減少した。
事故の種類は車両脱線である。

表－2 列車事故原因推移

原因		年度	30	R01	R02	R03	R04	R05
部内	取扱	鉄道						
		軌道	1		2		3	1
	車施	鉄道	1					
		軌道			1			
	その他	鉄道						
		軌道						
部外	踏切	鉄道		1				
		軌道						
	その他	鉄道						
災害	計	鉄道	1	1	0	0	0	0
		軌道	1	0	3	0	3	1

(注) 列車事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故
(軌道における車両衝突事故、車両脱線事故、車両火災を含む)を総称している。

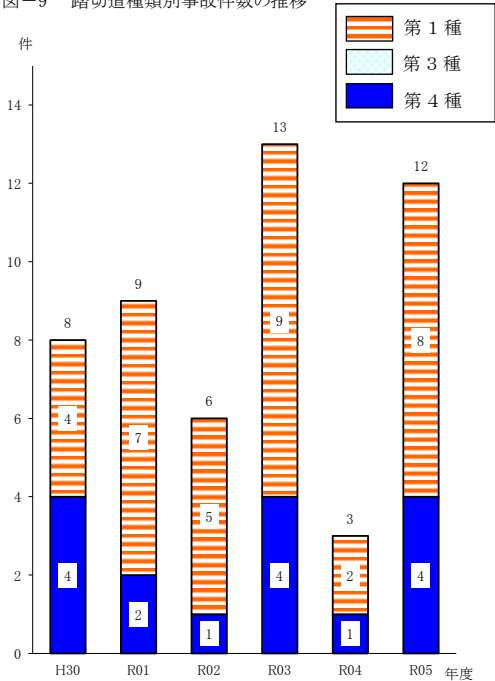
図－8 列車事故種類別件数の推移



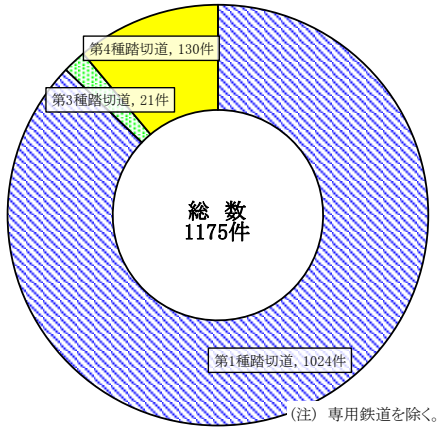
イ. 踏切障害事故

令和5年度の発生件数は12件と対前年度で9件増加している。種類別では、第1種踏切において対前年度で6件増加、第4種踏切で3件増加している。
原因別は、図－12のとおり、対前年度で直前横断が4件、自動車の運転操作誤りが2件、エンスト・その他は3件それぞれ増加した。

図－9 踏切道種類別事故件数の推移



図－10 踏切道数



表－3 踏切道種類別事故件数、踏切道 100 ヶ所当たりの事故件数の推移

踏切道種別	踏切道数(※)		事故件数		踏切道 100 ヶ所当たりの事故件数	
	R04年度	R05年度	R04年度	R05年度	R04年度	R05年度
第1種	1,024	1,024	2	8	0.20	0.78
第3種	21	21	0	0	0.00	0.00
第4種	130	130	1	4	0.77	3.08
合 計	1,175	1,175	3	12	0.26	1.02

(※第3種鉄道事業者 一般社団法人 佐賀・長崎管理センター 長崎線の踏切道数はJRの踏切道数に計上)

図-11 踏切障害事故 死傷者数の推移

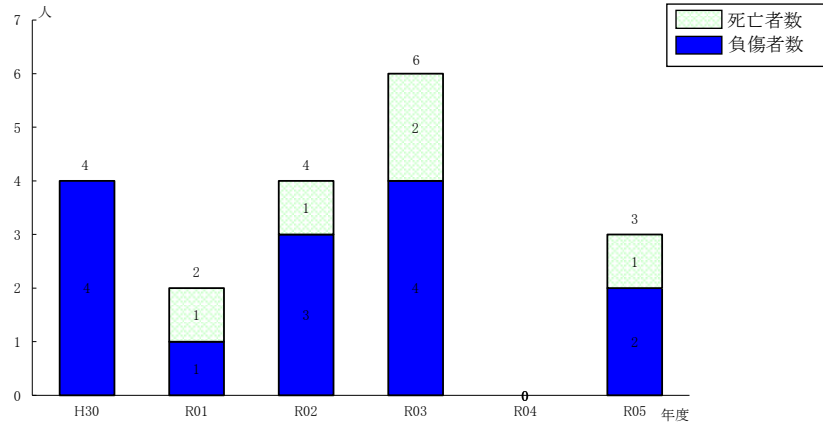


図-12 踏切障害事故 原因別件数の推移

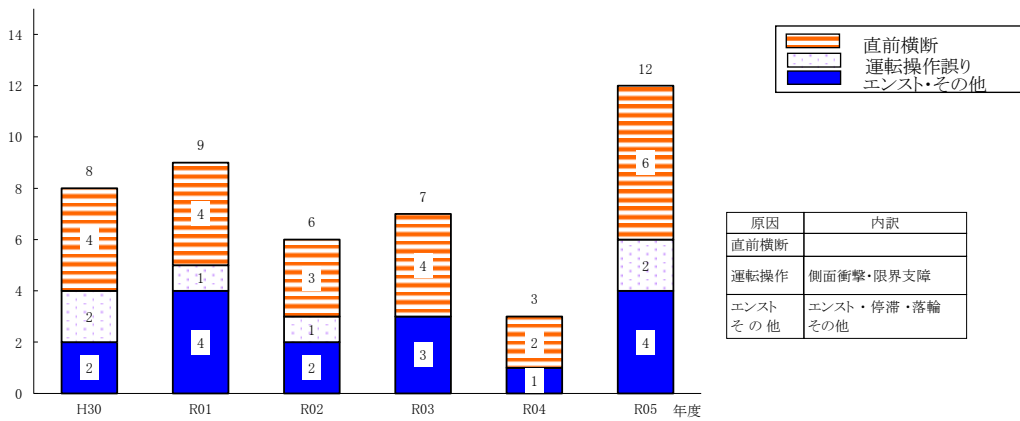
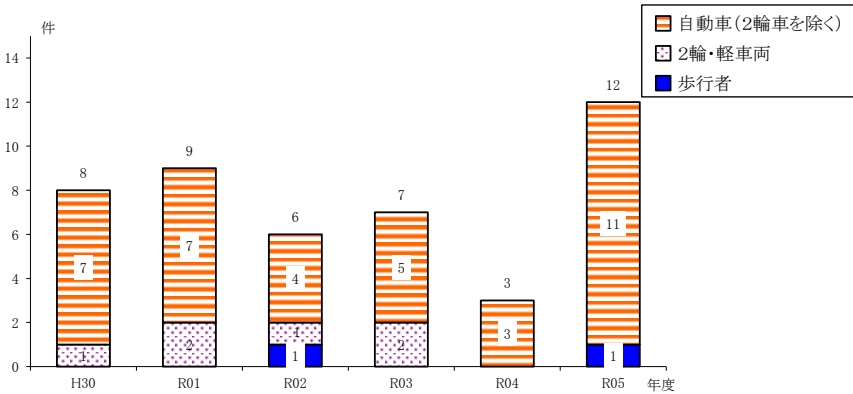
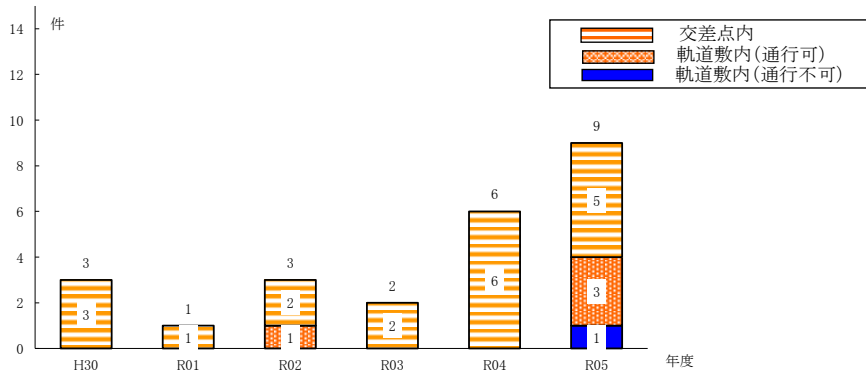


図-13 踏切障害事故 衝撃物別件数の推移



ウ. 道路障害事故

図-14 道路障害事故



エ. 人身障害事故

図-15 人身障害事故件数の推移

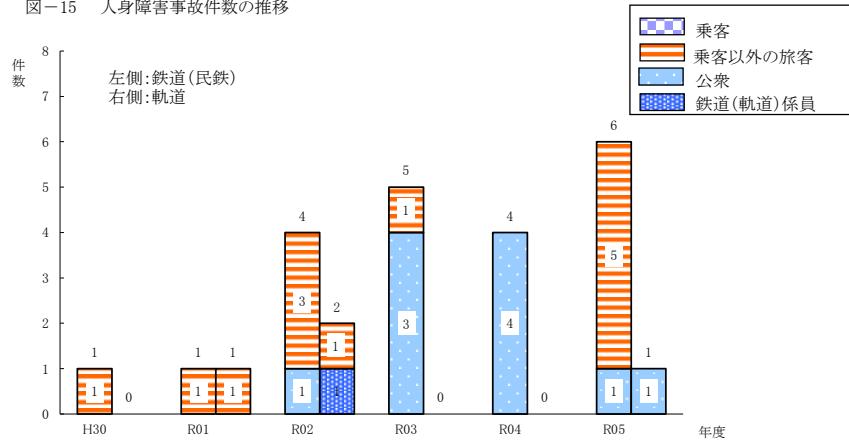
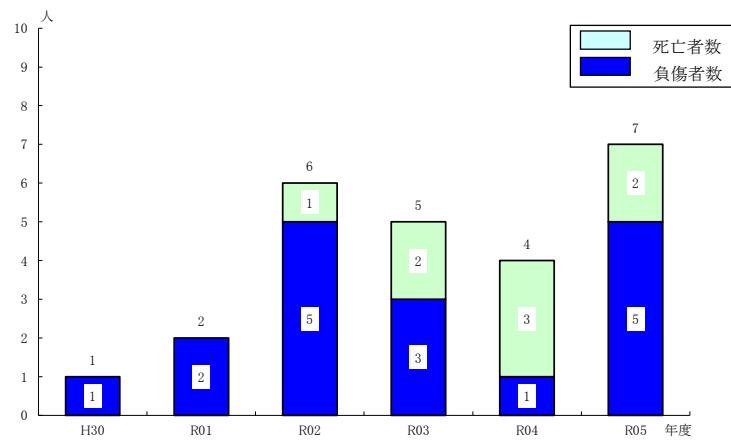
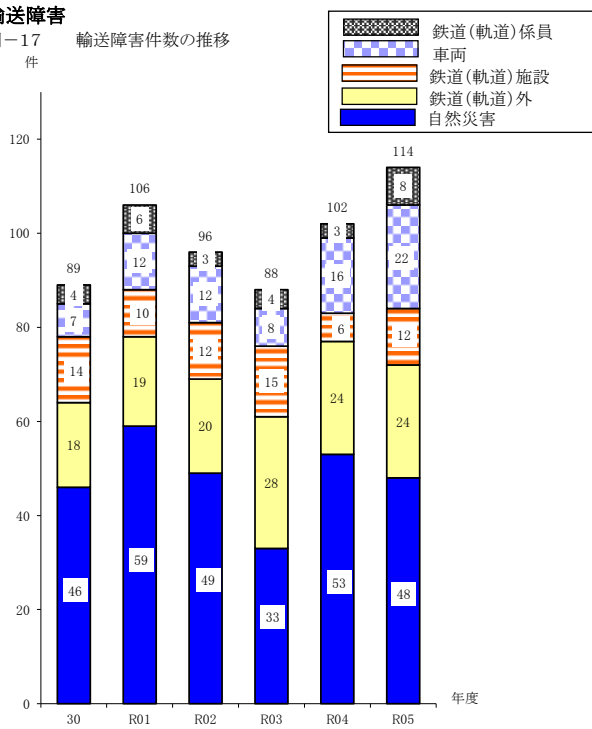


図-16 死傷者数の推移



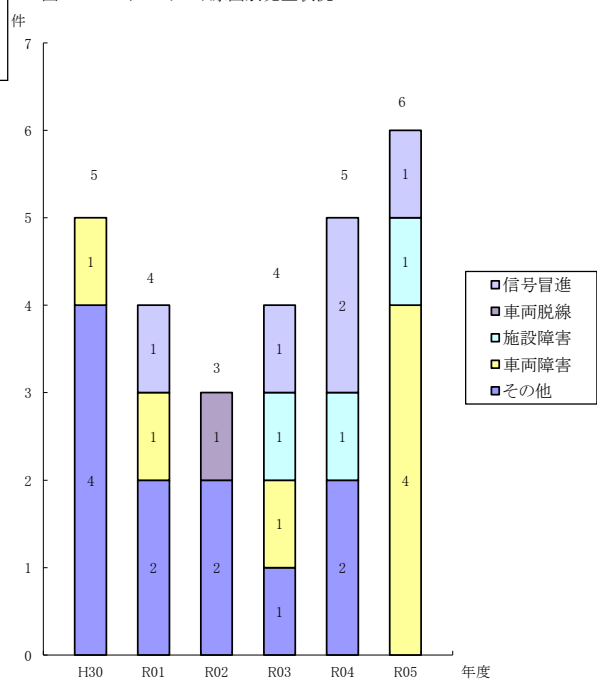
オ. 輸送障害

図-17 輸送障害件数の推移



カ. インシデント発生状況

図-18 インシデント原因別発生状況



(イ) JRの運転事故等の概況(九州管内)

JR3社(JR九州、JR西日本、JR貨物)の運転事故発生状況は表－1に示すように、総件数33件で対前年度で2件の増加であった。

事故種別で見ると、対前年度で踏切障害事故が11件の増加、人身障害事故が9件の減少となった。

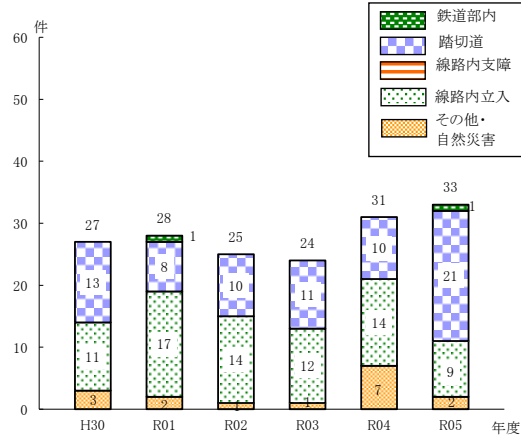
原因別に見ると、図－1、図－2に示すとおり、乗務員の取扱い誤りによる人身障害事故が1件発生しており、そのほかの運転事故については、直前横断等による踏切障害事故が多く発生している。

表－1 管内運転事故件数の推移

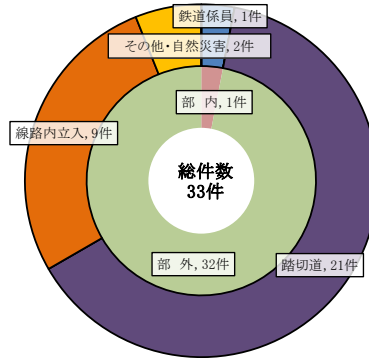
事故種別		年度	30	R01	R02	R03	R04	R05
列車衝突	件数							
	死亡							
	負傷							
列車脱線	件数							
	死亡							
	負傷							
列車火災	件数							
	死亡							
	負傷							
踏切障害	件数		13	8	10	11	10	21
	死亡		6	1	3	3	3	4
	負傷		2	1	2	4	3	6
道路障害	件数							
	死亡							
	負傷							
人身障害	件数		14	20 (1)	15	13	21	12 (1)
	死亡		11	13	11	8	15	7
	負傷		3	7 (1)	4	5	6	5 (1)
その他	件数							
	死亡							
	負傷							
合計	件数		27	28 (1)	25	24	31	33 (1)
	死亡		17	14	14	11	18	11
	負傷		5	8 (1)	6	9	9	11 (1)
列車走行キロ(千km)			78,536	74,079	77,490	69,942	70,121	70,389
100万キロ当たりの件数			0.34	0.38	0.32	0.34	0.44	0.47

(注) ()内は有責事故

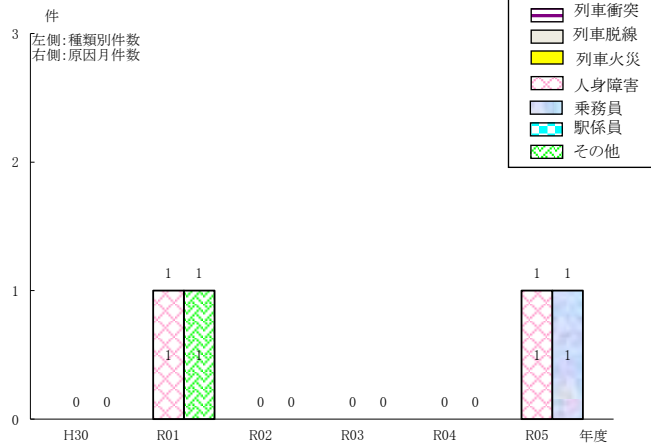
図ー1 運転事故の原因別件数の推移



令和5年度 運転事故の原因別件数



図ー2 責任事故の種類及び原因別件数の推移

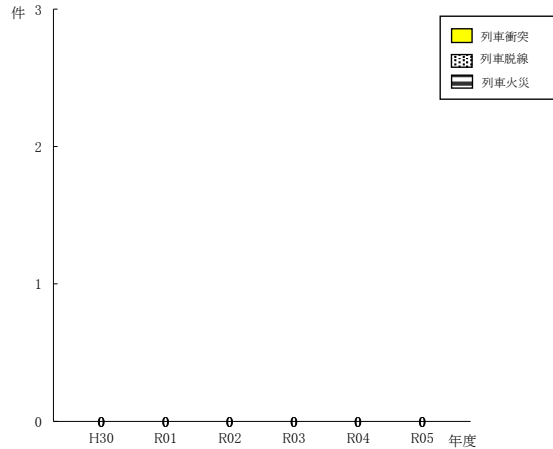


ア. 列車事故

令和5年度の発生件数は、図ー3に示すとおり0件でした。

ア. 列車事故

図ー3 列車事故件数の推移



表ー2 列車事故の原因別分類

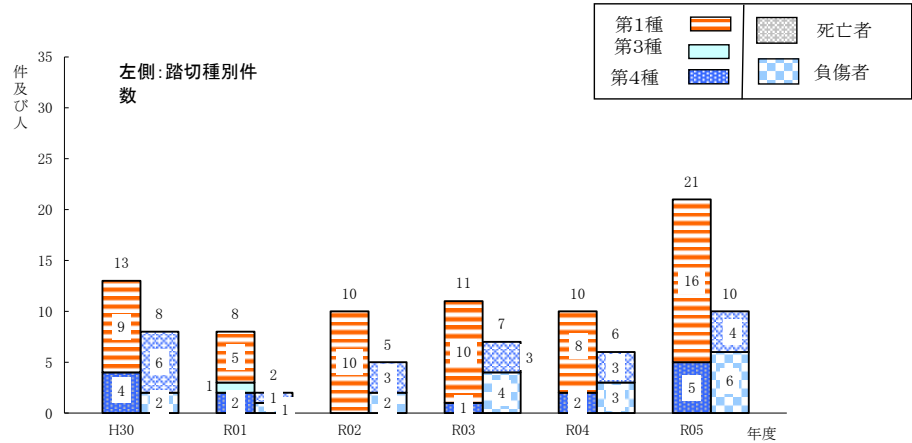
原因		29	30	R01	R02	R03	R04
部内	取扱い						
	車両施設						
	その他						
部外	踏切						
	その他						
災害							
合計		0	0	0	0	0	0

(注) 列車事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故を総称している。

イ. 踏切障害事故

- a. 事故件数及び死傷者数
令和5年度の発生件数は、図－4で示すとおり21件で対前年度で11件増加している。また、死傷者数は10人で対前年度で4人増加した。

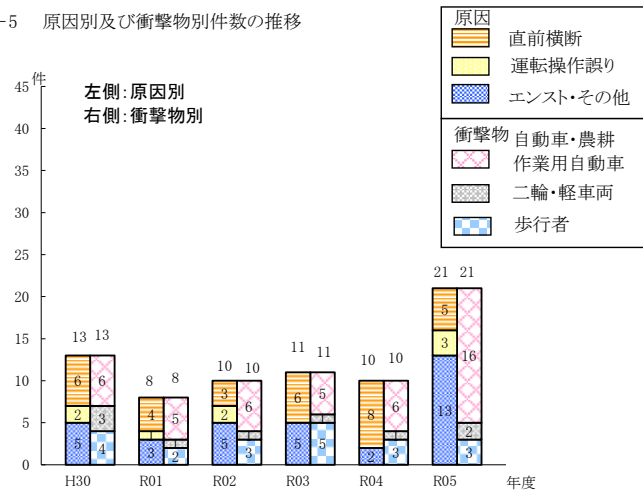
イ. 踏切障害事故
図－4 事故件数及び死傷者数の推移



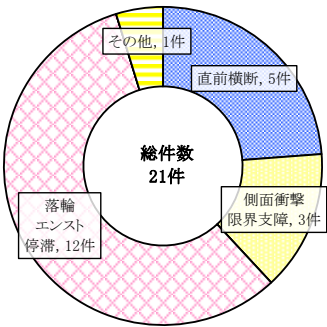
b. 原因別及び衝撃物別件数

原因別では、図－6のとおり、落輪・エンスト・停滞が約6割、直前横断が約2割を占めている。衝撃物別では図－7のとおり、自動車が約8割を占めている。

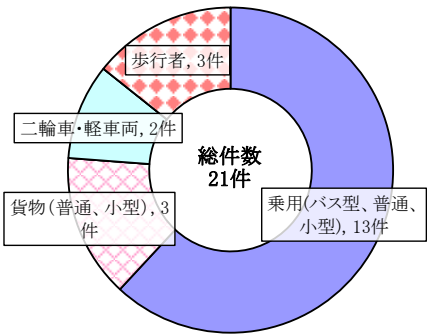
図－5 原因別及び衝撃物別件数の推移



図－6 令和5年度 原因別件数



図－7 令和5年度 衝撃物別件数



衝撃物	内容
乗用	バス型、普通、小型乗用自動車
貨物	普通、小型貨物自動車
特種・特殊	特種・特殊自動車
二輪・軽車両	
歩行者	

c. 踏切道種類別の事故件数、踏切道100ヶ所あたりの事故件数

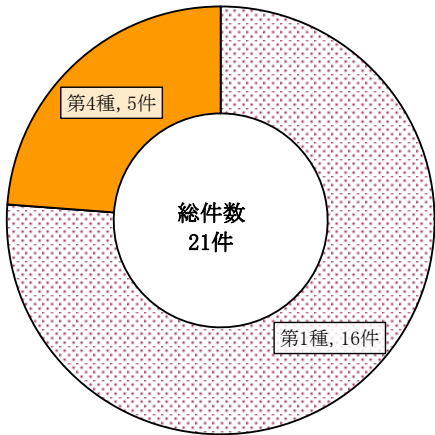
令和5年度末時点での踏切道数については対前年度で5箇所の減少となっており、事故件数については全体で11件増加している。
踏切道100ヶ所当たりの事故件数を踏切道種別で比較すると、第1種踏切道、第4種踏切道ともに増加している。
今後においても、さらなる踏切事故防止のためには立体交差化、自動車運転者等への道路交通法の遵守・マナーアップ等の対策が必要である。

表ー3 踏切道種類別事故件数、踏切道 100 ヶ所あたりの事故件数の推移

踏切道種別	踏切道数(※)		事故件数		踏切道 100 ヶ所 当たりの事故件数	
	R04年度	R05年度	R04年度	R05年度	R04年度	R05年度
第1種	2,531	2,527	8	16	0.32	0.63
第3種	77	77	0	0	0.00	0.00
第4種	214	213	2	5	0.93	2.35
合 計	2,822	2,817	10	21	0.35	0.75

(※踏切道数については、第2種鉄道事業者区間である一般社団法人 佐賀・長崎管理センター 長崎線の踏切道を含む)

図ー8 踏切道種類別事故件数

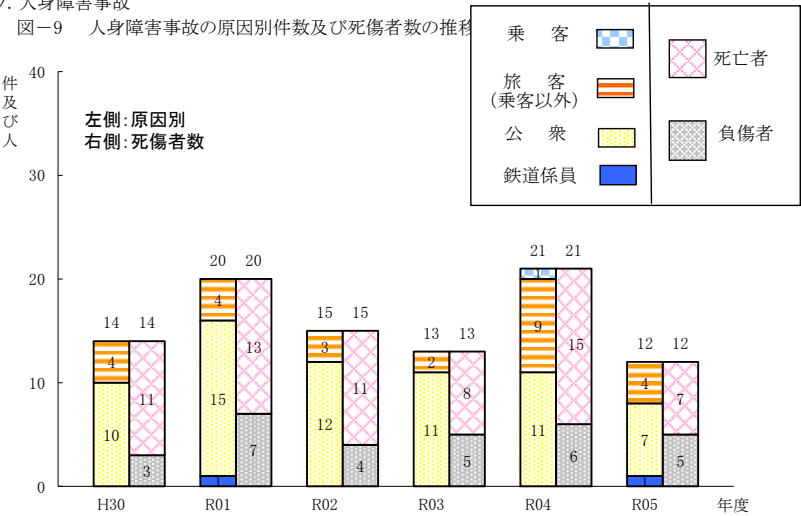


ウ. 人身障害事故

令和5年度の人身障害事故の発生件数については、12件で対前年度で9件減少している。また、死傷者数は12名で対前年度で9名減少した。

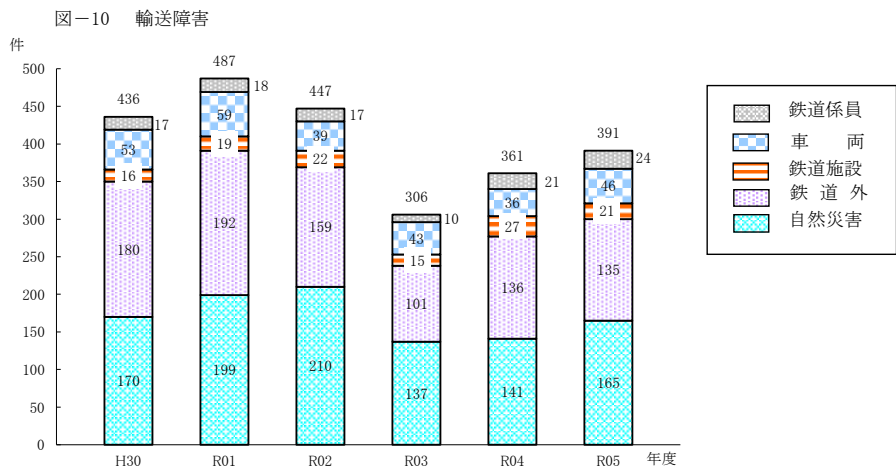
ウ. 人身障害事故

図ー9 人身障害事故の原因別件数及び死傷者数の推移

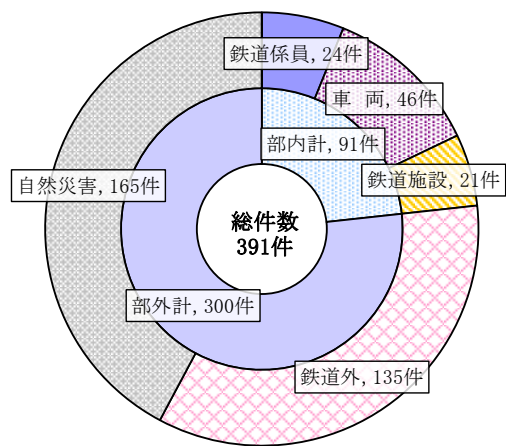


エ. 輸送障害

令和5年度の発生件数は、図－10のとおり、391件と対前年度で30件増加している。
また、部内原因による輸送障害91件のうち車両が最も多く46件となっている。



図－11 輸送障害の原因別件数



オ. インシデント発生状況

